

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第136号(2018. 7. 1)
事務局 川西地区自主防災会

自衛隊での経験から

香川県危機管理総局危機管理課 防災指導監 松村朝生

1 はじめに

平成30年3月に自衛隊を定年退職し、4月、県の防災指導監を拝命しました松村と申します。かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様におかれましては、日頃から県内各地での防災・減災活動に精力的に活動されているのを拝見させていただき、改めて心から敬意と感謝を申し上げます。

まず最初に自己紹介をさせていただきます。出身は丸亀市で、18歳まで丸亀城、飯野山を眺め、好物のうどんを食べて育ちました。飯山町東小川の自宅は妻が自宅管理をしており、長男は名古屋で学生生活、私は現在高松市で単身赴任と3人別々の生活をしています。自衛隊歴は福島県を新任地として横須賀市、富士、宮崎県えびの市、東京都、善通寺市、高知県、山形県、広島県、兵庫県伊丹市等、自衛官等生活33年間で計13回転勤をしました。今、自衛官生活を振り返ると、どこも素晴らしい土地、美味しい食べ物、そして温かい人々に助けられ、本当に自衛官になって良かった、と改めて感じています。仕事も、教育訓練、予算要求・執行、防衛・警備、秘書、隊員募集、米軍との協同訓練、学校教官等々、貴重な経験をさせていただきました。そして、災害派遣にも何回か参加しました。平成14年8月の本島での山林火災、16年8月の高松市高潮災害、旧大野原町での土砂災害、そして平成23年3月11日1446に起きた東日本大震災の災害派遣は今でも鮮明に記憶に残っています。そして伊丹駐屯地での中部方面総監部勤務を最後に、今年3月陸上自衛隊を定年退職しました。再就職にあたり、生まれ育った地元香川県に何か恩返しできる仕事はないものか、と伊丹にある中部方面総監部援護業務課にお願いしましたところ、タイミング良く県の防災指導監のお話をいただきました。念願だった香川県に勤務でき、しかも33年間の自衛官生活で得た経験が少しはお役に立てるのではないかと、ということで非常にやりがいを与えていただき、心から感謝しています。



2 自衛隊での災害派遣を通じて

H14年8月の本島山林火災の災害派遣は、当時善通寺駐屯地にあります第15普通科連隊の第3科長（防衛警備、災害派遣、教育訓練の担当科長）に上番した直後でした。着任早々自分の業務も良く理解できないまま、毎朝ヘリで連隊長に同行

して本島の現地指揮所に赴き、約1週間、地元警察、消防本部及び消防団の方々と、ヘリと地上消火による消火活動についての現地調整を実施しました。地元消防団及び警察は、現地の地形・植生、住民情報等隅から隅まで熟知されており、改めて地元根ざした組織だなあ、と感銘を受けました。またH16年は台風被害の当たり年ともいえるべき年で、8月の高松市高潮災害では台風一過後災害派遣要請があり、夏真っ盛りの中、防疫処置の重要性を再認識いたしました。10月には旧大野原町での土砂災害の災害派遣がありました。被災現場は山肌が剥き出しでしかも急峻な沢の真下であったため、災害派遣にあたる隊員の2次被害防止を常に念頭に置き災害派遣活動を実施したことを覚えています。東日本大震災では、当時山形県にある第6師団司令部の監察官として勤務していました。H23年3月11日(金)はたまたま東京都市ヶ谷の防衛省にて午前中まで会議に出席し、会議を終えて東北新幹線で帰路の途中、急遽栃木県小山町付近で緊急停車となるや非常に強い横揺れに襲われ、新幹線車内は女性・子供の悲鳴・泣き叫ぶ声でパニック状態となりました。発災から約4時間経った夜7時頃、新幹線を下車し線路伝いに誘導員に案内されて約3kmほど歩き小山駅に到着、そこで100名ほどのグループに分かれ、私は小山第2中学校体育館の避難所に誘導されました。当日は寒い日で、夜になると更に寒く、パイプ椅子に座ったまま一夜を過ごしました。中には体調を崩されたお年寄りの方も大勢いて救急車で搬送されました。深夜に近くの精肉店から各人に1個ずつ温かいコロッケが配られ、昼以降何も口にしていなかった避難所の人々が、非常に喜んで美味しそうに食べていた事を鮮明に覚えています。3月14日、山形から緊急車両で迎えに来てもらうまでの3日間は避難所生活を体験しましたが、トイレ問題の解決、時期柄食事特に温かい汁系の食事が必要だと痛感しました。このような時、カマドベンチ等自炊できる施設があれば非常に重宝するのではないかと思います。そして緊急車両で山形県に戻るや直ちに、宮城県庁、次いで特に壊滅的被害に見舞われた石巻市への派遣命令がありました。当時6町との広域合併が6年前に行われた石巻市では行政がほとんど機能不全に陥っていました。派遣を命ぜられた私は、当時の師団長から「自衛官であるのは然り、石巻市役所職員になったつもりで、石巻市のため全力で働いてこい」と叱咤激励され、警察、消防、自衛隊、地元建設業者等と行方不明者の捜索、道路啓開・ガレキ除去のための重機運用、入浴・給食支援等、無我夢中で約1週間災害復旧活動をしました。その後、新たな命令を受領し、原発被害地域の復旧・復興活動のため、福島県庁にて8月末までの約5ヶ月間、自衛隊の効果的・効率的運用について調整業務を実施しました。

3 南海トラフ地震への備え

6月18日0758、大阪北部地域を震源とする震度6弱の地震が発生しました。ここ数年緊急地震速報の記憶が薄れかけていた私は、高松市の公舎で突然けたたましく鳴り響く速報音に動揺し、「ついに南海トラフ地震が来たか」と身構えてしまいました。大阪府では5名の尊い命が奪われてしまいました。幸いにも香川県では大きな被害はありませんでした。災害は忘れた頃にやって来る、と昔から言われていますが、地震は何時、何処で、どの規模で起きるのか、現代科学では解明

できていません。しかし、南海トラフ地震はその発生メカニズムから100%必ず来るのです。断言できるのです。過去約100年間隔で4回ほど南海トラフ地震の記録が残っているようであり、香川県においては甚大な被害は少なかったようですが、近い将来起きる南海トラフ地震でも被害は少ないと言えるのでしょうか。答えはNOです。最悪のケースでは死者6200名、負傷者19000名、全壊・焼失棟数35000棟との被害推定です。確かに高知県、徳島県、和歌山県に比較すれば被害は少ないかも知れませんが、香川県の被害は東日本大震災での岩手県の被害規模と同程度と極めて甚大な被害を受けるのです。どうせその時は、自衛隊、消防、警察、自治体等「公助」の各機関が救助に来てくれるのでは、と思いがちですが現実とは全く違います。自衛隊を例にとれば、自衛隊は集中運用が原則であり、国内で被害が最も甚大な地域に集中して運用されます。被害規模から言えば、高知県、徳島県、和歌山県が優先されるべきであり、現実問題として個人的に香川県には自衛隊の部隊派遣が難しいと思われれます。(善通寺駐屯地の一部部隊を当初派遣し、事後北海道の部隊を逐次転用予定とは伺っていますが)では、どうすれば良いのか。まずは「自助」「共助」しかありません。ある意味、個人的には高知県、徳島県等よりも逆に香川県の方が「自助」「共助」の相対的な重要度は大きいと思われれます。「公助」の各機関が全く機能しないとは言いませんが、「公助」に過度な期待を懐いてはいけません。「自らの命は、自らで守る」これこそが非常に重要です。まずは、「自助」です。家庭での家具の転倒防止処置(寝室の家具の配置換えを含む)、非常用食料・防災備品の日頃からの準備、家屋の耐震診断等、積極的に実施していただければ全壊棟数は11分の1、死者数は15分の1に減災できるのです。そして「共助」、すなわち同じ地域に生活する方々相互の助け合いも非常に重要です。私の子供の頃は、「向こう三軒両隣」といって、母親などはちょっとした調味料の貸し借りとか、野菜とか夕食のおかずの御裾分けとか、頻繁にお隣宅に出入りしていたように思います。困ったことがあればお互いが相互に助け合う関係性が依然のようにもっと構築出来れば、万一の災害時被害が極限できるものと確信しています。その意味において、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様、県内各地にて日頃から防災・減災活動に精力的に活動されている事は本当に重要な活動であり、今後他の地域にこの精神が更に波及されることを切に願って止みません。

4 終わりに

先述したとおり、南海トラフ地震では香川県は、高知県、徳島県に比べ被害が極端に少ないイメージがあります。また温暖で恵まれた土地柄であり、香川県に限って大きな災害は来ない、と思われている方々も少なくありません。今後、防災指導監として勤務するに当たり、防災講話、各種防災訓練を通じて、悪戯に危機感を煽るのではなく、万一の時、一人でも多くの尊い命が救えるよう微力ながら職務に専念努力したいと思っております。今後ともかがわ自主ぼう連絡協議会の皆様からの温かい御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

事務局だより

平成30年 7月

今月の事務局だよりは、報告とお知らせです。

繰り返された悲劇

災害は忘れたころにやってくるとよく言われますが、大阪北部地震で悲しいことが発生しました。

1978年宮城沖地震で18名の児童がブロック塀倒壊により犠牲となりました。このことからハザードマップの作成も含め、まちなかウォッチングでも背の高いブロック塀や古くなっているブロック塀には、特に注目して対応してきましたが、今回の地震で学校施設のブロック塀が倒壊し、小学4年生の児童の尊い命が奪われました。



今後、危険物（古いブロック塀等）にどのような表示がよいのか、所有者との協議が必要になると思いますが、地域の中、特に通学路については早急にアクションを講じる必要があると思っています。

祝！香川大学創造工学部設立

平成30年6月24日、国際会議場において、香川大学創造工学部設立記念式典が催された。

林文部科学大臣、浜田香川県知事、四国経済連合会千葉会長、並びに県選出国會議員多数、ご臨席のもと設立記念式典が行なわれ、主催者、ご来賓ごあいさつの後、長谷川学部長より、設立の主旨、経緯等の説明がなされた。私（岩崎）も文理融合をとなえ設立された工学部誕生には、4～5年裏方として関わったこともあり、ただ懐かしく、早や4000名を超える卒業生と時代の流れの早さに感慨ひとしおでありました。



これからの時代にふさわしい人材育成のため、「デザイン思考能力」「イノベーション能力」、更には「リスク管理」など従来からの「剛」＋「しなやかさ」を併せ持った素晴らしい人材の輩出されることを祈って、お祝いのメッセージとしたい。

ざぶん賞四国地区実行委員会が学校訪問

東大名誉教授月尾嘉男先生の強い要請により、ざぶん賞の四国地区実行委員会を立ち上げ3年目の季節がやってきました。夏休みを一か月後に控えて各種団体から児童生徒に対して要望の多い中、私共も「ざぶん賞」の封筒を持参して学校訪問を重ねています。

昨年高知県香美市の山間部の学校を回って自然豊かな所で勉強ができ素晴らしいと思っておりましたが、今年三豊市の財田小学校に伺った折に、香川県にも阿讃山脈の見渡せ、雄大且つ自然豊かな環境の中で勉強のできる所があるものだと実感いたしました。校長先生にお話をお伺いしますと「野生の猿の生息地に近いせいか、授業中に数頭が群れをなして学校内をかつぼするので困っています。」とのことでした。



11月17日（土）に防災訓練を実施しますがサル君も参加??

編集後記

今月の防災減災の輪は、香川県危機管理総局危機管理課 防災指導監 松村様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。